



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会
Benzodiazepine YAKUGAI Association

ベンゾジアゼピン混入（小林化工事件）に関する報道の要望書

日本放送協会

報道局長 根本拓也 様

令和3年2月10日

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会

情報提供人 代表 多田 雅史

代 表

多田 雅史



Registered Trademark (R)
「患者・行政・医療者の三者の協力」
を表しています



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会
Benzodiazepine YAKUGAI Association : BYA

HP <https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉1-1-35
ハイエスト久屋5F 柴田・羽賀法律事務所
事務所TEL : 052-953-6011、多田携帯 : 080-1566-3428
E-mail : crosstada2@vesta.ocn.ne.jp

BYA-HP: <https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

* 本件へのお問合せは上記の携帯電話へお願いします。

前略

当会は、2017年11月に設立され、400名余の会員がいるベンゾジアゼピン系薬物（向精神薬）の副作用による被害者の会です。今回、小林化工が経口抗真菌剤イトラコナゾールにベンゾジアゼピン系薬物の「リルマザホン塩酸塩水和物」を混入させ、患者が死亡又は多数の副作用患者が生じた事件について、当会は、従来からベンゾジアゼピンの危険性を強く警告してきたにも拘わらず、放置されたまま、当事件を生じさせた行政の不作为に対して、別紙のとおり、監督行政庁に対し、強く抗議しました。

この「小林化工事件」の問題の中核は、単に、睡眠導入剤（ベンゾジアゼピン）の杜撰な製剤管理の問題に留まらず、元には、ベンゾジアゼピン系薬物自体の危険性があり、従前、ベンゾジアゼピン系薬物の危険性は、度々、報道されてきました。しかしながら、同薬物による国内被害者は、「ベンゾジアゼピン副作用ではなく、原疾患だ」などと診断され、ベンゾジアゼピンの副作用被害が明らかにされないまま、日本国内では多量のベンゾジアゼピンが処方され、その結果、多数の副作用被害者が放置されています。しかし、小林化工事件は、原疾患が「水虫」のため、原疾患による死亡又は重篤な副作用とは言えず、期せずして、ベンゾジアゼピン系薬物の危険性が証明されたと言えます。そこで、御局において、ベンゾジアゼピン系薬物の危険性の特集報道を希望しますので、ぜひ、詳細な取材の上、ベンゾジアゼピン系薬物の問題の中核に踏み込んだ報道をお願いします。 草々